

【2】

🔍 全訳

文化は生物学と対立するものではない。むしろ、文化とは、生物学が異なる共同体において取る形にほかならない。一つの文化は他の文化と異なりうるが、その違いには限界がある。それぞれの文化は、人類という種に共通する生物学的基盤の表現でなければならない。自然と文化の間に長期的な対立があるはずがない。もしあったとしても、自然が常に勝ち、文化が常に敗れるだろう。

---

🔍 第1文

Culture is not something in opposition to biology; rather, culture is the form that biology takes in different communities.

→ 文化は生物学と対立するものではない。むしろ、文化とは、生物学が異なる共同体において取る形である。

■ 解説ポイント:

- ✓ Culture is not something in opposition to biology:
  - ✓ in opposition to ~:「~に対立して」。抽象的・学術的表現。
  - ✓ ;(セミコロン):前文の否定を受けて、対照的な肯定文を導く。
  - ✓ rather, …:「むしろ~である」。文修飾副詞。
  - ✓ the form that biology takes:
    - that 節は関係詞節。先行詞は *the form*。
  - ✓ in different communities:「異なる共同体において」。
- 

🔍 第2文

One culture may differ from another culture, but there are limits to the differences.

→ 一つの文化は他の文化と異なりうるが、その違いには限界がある。

■ 解説ポイント:

- ✓ may differ from ~:「~と異なりうる」。may は可能・許容。
  - ✓ differ (自) from ~:「~と異なる」(他動詞ではない点に注意)。
  - ✓ there are limits to ~:「~には限界がある」。
- 

🔍 第3文

Each must be an expression of the underlying biological commonality of the human species.

→ それぞれの文化は、人類という種に共通する生物学的基盤の表現でなければならない。

■ 解説ポイント:

- ✓ Each must be ~: SVC 文型。「各文化は~でなければならない」。
- ✓ be an expression of A  $\doteq$  express A: 「Aを表す/Aの表現である」。  
例: *Art is an expression of emotion.  $\doteq$  Art expresses emotion.* (芸術は感情を表現する)。
- ✓ underlying: 「根底にある」「基礎をなす」。語源: *under*(下に) + *lie*(横たわる) → 「下に横たわっている = 根底をなす」。
- ✓ biological commonality: 「生物学的共通性」。commonality の語源: *common*(共通の) + *-ality*(名詞化) → 「共通点・共有性」。同義語: *similarity, universality*。反意語: *diversity*。
- ✓ of the human species: 「人間という種の」。
- ✓ Each は省略形で *each culture* を指す。
- ✓ must: 義務ではなく論理的必然。「当然~であるはずだ」。

🔍 第4文

There could not be a long-term conflict between nature and culture, for if there were, nature would always win; culture would always lose.

→ 自然と文化の間に長期的な対立があるはずがない。もしあったとしても、自然が常に勝ち、文化が常に敗れるだろう。

■ 解説ポイント:

- ✓ There could not be ~: 「~であるはずがない」。could は仮定法過去の用法で「現実には起こりえない」という含意(推量の控えめ表現ではなく、非現実の仮定)。
- ✓ long-term conflict between A and B: 「AとBの間の長期的対立」。
- ✓ for: 「というのは~だから」。for は等位接続詞(coordinating conjunction)。
  - 構文: for if S V, S V = 「なぜなら、もし~なら(…)だから」。  
例: *He must be home, for if he were not, the light would be off.*  
(彼は家にいるに違いない。もしそうでなければ電気が消えているはずだ。)
- ✓ if there were, nature would always win: 仮定法過去。were の後には本来「a conflict」が省略されている(= *if there were (a conflict)*)。
- ✓ ;(セミコロン): 2つの独立節(win / lose)を対照的に結ぶ。

【3】

🔍 全訳

歴史の知識を身につけることは、一般人にとっては楽しく安全な娯楽である。しかし、歴史の理解を深めることは、未来に影響を与えようとする人々にとって不可欠である。この主張の根拠は、歴

## No33

史が教えるべき教訓にのみあるのではない(それらがいかに貴重であっても)。むしろそれは、歴史が私たちに「どのようにして現在に至ったか」を自覚させることによって、私たちが自分の位置を把握し、どんな旅人のように未知の領域に向かって、少なくとも進むべき方向に確信をもって踏み出せるようにしてくれるからである。私たちが現在に反応するかたちで未来と出会うとき、その反応のしかたは、おおむね過去——すなわち私たちの歴史——によって決定される。

---

### 🔍 第1文

Acquiring a knowledge of history is a pleasant and safe pastime for the amateur.

→ 歴史の知識を身につけることは、一般人にとって楽しく安全な娯楽である。

#### ■ 解説ポイント:

✔ Acquiring a knowledge of history: 動名詞句が主語。「歴史の知識を得ること」。

✔ is a pleasant and safe pastime: SVC 文型。補語 C は「pleasant and safe pastime」。

✔ and: 等位接続詞。同格の形容詞を並列し、「楽しく、かつ安全な」という調和的な意味を作る。

✔ for the amateur: 「素人・一般人にとって」。

✔ pleasant, pleased, pleasing, pleasantry, please の違い:

・pleasant「快い、楽しい」: 物や状況が人を喜ばせる性質。・pleased「喜んでいる」: 人の感情(受け身的)。・pleasing「心地よい」: 人を喜ばせる(原因側)。・pleasantry「冗談、軽口」。

・please「喜ばせる」〈語源: ラテン語 placere(喜ばせる)〉。

---

### 🔍 第2文

Developing an understanding of history is essential for those who would influence the future.

→ 歴史の理解を深めることは、未来に影響を与えようとする人々にとって不可欠である。

#### ■ 解説ポイント:

✔ Developing an understanding of history: 動名詞句が主語。「歴史理解を深めること」。

✔ is essential for ~: 「~にとって不可欠である」。SVC 文型。

✔ essential: 語源は esse(存在する) + -ntial(形容詞語尾) → 「存在に関わる = 本質的な」。

同義語 indispensable, fundamental, vital。

✔ those who ~: 「~する人々」。those(=people)を関係代名詞節 who would

influence the future が修飾。

- ✔ would:意志・仮定・控えめな意味を含む助動詞。「未来に影響を与えようとする」人々。

### 🔍 第3文

It is not only on the lessons that history has to teach, valuable though they are, that this claim lies.

→ この主張の根拠は、歴史が教えるべき教訓にのみあるのではない(それらがいかに貴重であっても)。

#### ■ 解説ポイント:

- ✔ It is not only A that B:「Bの理由はAだけではない」。強調構文。
- ✔ on the lessons that history has to teach:「歴史が教えるべき教訓の上に」。
- ✔ that history has to teach:関係詞節。先行詞は lessons。  
→ もとの構文は history has lessons to teach(=「歴史は教えるべき教訓を持っている」)。  
この have to teach は「教えなければならない」ではなく、to teach が lessons を修飾して「教えるための教訓」という意味を作る。
- ✔ valuable though they are:譲歩の倒置構文。「それらが貴重であっても」。元の形は Though they are valuable.
- ✔ lie on ~:「～に基づく」「～の上にある」。抽象的に「根拠が～にある」。

### 🔍 第4文

It is rather because history, by making us aware how we arrived where we are today, gives us our bearings so that, like any traveller, we may venture into the unknown confident at least of our direction.

→ むしろそれは、歴史が私たちに「どのようにして現在に至ったか」を自覚させることで、私たちが自分の位置を把握し、どんな旅人のように未知の領域に向かって、少なくとも進むべき方向に確信をもって踏み出せるようにしてくれるからである。

#### ■ 解説ポイント:

- ✔ It is rather because ~:「むしろ～だからである」。前文の not only に対応。
- ✔ by making us aware ~:「私たちに気づかせることによって」。手段の副詞句。
- ✔ make O aware (that ~):「Oに～を自覚させる」。
- ✔ how we arrived where we are today:名詞節。「どのようにして現在に至ったか」。
- ✔ gives us our bearings:「私たちに方向感覚を与える」。bearings=「方位・位置感覚」。
- ✔ so that ~ may ~:「～できるように」。目的を表す。
- ✔ like any traveller:「どんな旅人のように」。

## No33

- ✓ venture into the unknown:「未知の領域に踏み出す」。
  - ✓ confident at least of our direction:「少なくとも自分の進む方向には確信をもって」。
- 

### 🔍 第5文

When we meet the future by reacting to the present, how we react is largely determined by the past — our history.

→ 私たちが現在に反応するかたちで未来と出会うとき、その反応のしかたは、おおむね過去——すなわち私たちの歴史——によって決定される。

#### ■ 解説ポイント:

- ✓ When we meet the future by reacting to the present:
    - ・by+Ving「～することによって」。
    - react to ~「～に反応する」。
  - ✓ how we react:名詞節(疑問詞節)で主語。「私たちがどのように反応するか」。
    - ・how 節は「疑問詞+S+V」の形で名詞節を導く。
    - ・例:How you live shows who you are.(生き方が人となりを表す。)
  - ✓ is largely determined by ~:「～によっておおむね決定される」。
  - determine = 「明確に定める」。
  - ✓ the past — our history:「過去、すなわち私たちの歴史」。
- 

### 【3】

#### 🔍 全訳

映画とは何か、フィルムとは何か。わずか100年の歴史しか持たない映画は、そのさまざまな形態において、あまりに身近でありふれた存在となったため、私たちはそれが実際にはいかに奇妙な現象であるかをほとんど意識しない。映画は単なる驚くべき娯楽手段、優れた物語伝達装置であるだけでなく、世界に他に類を見ない「現前性」と「即時性」を与える。そして映画が発明される以前には、誰もそんなものを想像すらしなかった。他のいかなるものも、映画のように人にこれほど強烈な感情を与えることはないし、また外の世界や他者の人生に、これほど直接的かつ生々しく人々を関与させるものも存在しない。

---

#### 🔍 第1文

What is cinema and what is a film?

→ 映画とは何か、フィルムとは何か。

#### ■ 解説ポイント:

- ✓ 2つの疑問文が and で並列されている。ともに wh 疑問詞+S+V の構文。
- ✓ cinema は「映画という芸術・文化・映像媒体全体」を指す不可算名詞。
  - 一方、film は「1本の映画作品」「フィルム素材」を指す可算名詞。

例: *I love cinema.* (映画という文化が好き) / *I saw three films last week.* (3本の映画を見た)。

### 🔍 第2文

A mere hundred years old, the cinema has — in its different manifestations — become at once so obvious and so ubiquitous that one hardly appreciates just how strange a phenomenon it actually is.

→ わずか100年の歴史しか持たない映画は、そのさまざまな形態において、あまりに身近でありふれた存在となったため、私たちはそれが実際にはいかに奇妙な現象であるかをほとんど意識しない。

#### ■ 解説ポイント:

✔ A mere hundred years old: 名詞句的だが、ここでは副詞句として全体を修飾。「わずか100年しか経っていない状態で」。be動詞(is)が省略された省略構文。

✔ the cinema has become ...: SVC文型。Cは「so obvious and so ubiquitous」。

✔ in its different manifestations: 「そのさまざまな形態において」。manifestationは「現れ・形態」。語源: manus(手) + festus(打つ) → 「目に見えるように現れること」。

✔ at once A and B: 「同時にAであり、かつBでもある」。例: *He is at once kind and strict.* (彼は優しくも厳しい)。

✔ so ... that ...: 「あまりに～なので…」。結果構文。

✔ appreciate: 「正しく理解する・価値を認める」。本来は感謝する意ではなく、「深く認識する」語義。目的語に that 節・wh 節を取る。

✔ just how strange a phenomenon it actually is:

・冠詞の位置は “how + 形容詞 + a + 名詞” の順序になる(例: *how difficult a problem it is*)。この分は、It actually is a strange phenomenon. をもとに考える。strange の前に how(感嘆文)を置いて、strange が前に出て、how strange a phenomenon となっている。What を用いると、just what a strange phenomenon it actually is となる。例)

What a pretty doll she has! = How pretty a doll she has!

### 🔍 第3文

Not only an extraordinary entertainment medium, a superb storytelling machine, it also gives a kind of presence and immediacy to the world unparalleled elsewhere, and undreamt of before the cinema was invented.

→ 映画は単なる驚くべき娯楽手段、優れた物語伝達装置であるだけでなく、世界に他に類を見ない「現前性」と「即時性」を与える。そして映画が発明される以前には、誰もそんなものを想像すらしなかった。

## No33

### ■ 解説ポイント:

✓ Not only A, B, it also C:倒置構文。not only 以下の主語・動詞が省略されており、文頭で強調。

元の形: *The cinema is not only an extraordinary entertainment medium and a superb storytelling machine, but it also gives...*

✓ an extraordinary entertainment medium, a superb storytelling machine: 2つの名詞句が同格で、どちらも「映画」という存在を説明している。

✓ presence and immediacy:「現前性と即時性」。

presence = 「そこに実際に存在する感じ」、immediacy = 「直接性」。

✓ unparalleled elsewhere, and undreamt of before the cinema was invented:

両者はともに a kind of presence and immediacy を修飾する後置修飾。

・unparalleled elsewhere:「他では並ぶものがない」

・undreamt of before ...:「映画が発明される以前には想像もされなかった」

✓ invented: invent = in(中に) + venire(来る) → 「中に持ち込む」 → 「発明する」。

---

### 🔍 第4文

Nothing else seems to give such intense feelings; nothing involves people so directly and tangibly in the world out there and in the lives of others.

→ 他のいかなるものも、映画のように人にこれほど強烈な感情を与えることはないし、また外の世界や他者の人生に、これほど直接的かつ生々しく人々を関与させるものも存在しない。

### ■ 解説ポイント:

✓ Nothing else seems to give ~: 否定語を文頭に置き強調。「他の何ものも～ではない」。

✓ such intense feelings: 「これほど強烈な感情」。intense = 「激しい、強烈な」。語源 in(中に) + tendere(張る) → 「張り詰めた」。

✓ ;(セミコロン): 2文を並列・対比。「感情を与える」vs「関与させる」。

✓ nothing involves people so directly and tangibly:

・involve O in ~ 「Oを～に関与させる」。

・so directly and tangibly: 「直接的に、かつ手触りを感じるほどに」。

tangible = 「触れるほど現実的な」 <語源: tangere(触る)>。

✓ in the world out there: 「あの外の世界において」。out there = 話し手の外にある現実世界。

✓ and in the lives of others: 「そして他者の人生において」。